



さあ、まだ見ぬ壁が
待っている。

**MONKEY
MAGIC**

見えない壁だって、越えられる。
特定非営利活動法人モンキーマジック
設立20周年 記念冊子

20th
Years
Anniversary!


代表挨拶「20周年の御礼と描く未来」

NPO法人モンキーマジックは、2025年8月25日を以て創立20周年を迎えることができます。これもひとえに、日頃より私たちの活動に参加し、支え、応援し続けてくださる皆様のおかげであり、心より感謝申し上げます。

設立当初より変わらないのは、私の「自分の視覚障害が進行してもクライミングを楽しみ続けていられるのなら、この素晴らしい世界をほかの視覚障害者にも届けたい。」というシンプルな志です。誰もやったことのないことをどのように届け拡げて行くのか、厳しい模索の日々の連続でしたが、クライミングを楽しんでくれる視覚障害者との出会い、そして彼らの「できた!」という喜びの瞬間に触れるたび、この活動の意義を強く確信するようになり、その思いが今日へと続いています。

過去から未来へ

この20年間で、クライミングを取り巻く環境も大きく変化しました。私たちの本拠地である東京に限らず、全国各地でクライミングに親しみ、楽しさを知る機会が多世代の障害者にも大きく増えたこと、そしてその瞬間を障害のない方が共有できる機会が飛躍的に増えたことは、私たちの活動の大きな成果だと感じています。

しかし、私たちの挑戦はまだ道半ばです。社会には、未だ多くの固定的な「障害者にはできない」という見方が存在しています。確かにできないことも、時間がかかることもあります。しかし、直接的な交流が障害のない人にも、そして障害者自身にも、気づきと行動の変革をもたらすことと思います。

私たちが目指すのは、障害者にクライミングの機会を届けることのみならず、クライミングを活かした多様な人が交流できる機会を創出することです。その先には、自発的に行動できる人が増え、人々が成長できる実感とともに暮らし「多様性を認め合うより成熟した社会」があるはずです。

私たちの未来への強い志

私たちが思い描く未来の社会のため、モンキーマジックは以下の3つの柱を軸に活動を展開していきます。

1. 交流型クライミングを通じたインクルーシブ社会の推進

全国47都道府県すべてに交流型クライミングの拠点を広げられるよう、最重要事業と位置づけ推進します。クライミングが単なるスポーツではなく社会を豊かにできることを伝え、既存地域の支援、子どもたちにも対象を広げ、アジア諸国をはじめとした国際交流、この社会的価値をさまざまなセクターに届けていくことで、障害に対する社会の意識を変え、真の共生社会の実現に貢献します。

2. 「見えないクライミング、だからこそ見える世界」一層の価値創造

視覚障害のある方とのクライミングは「助ける/助けられる」という関係性に留まりません。相手と言葉を交わし、共に登る仲間になることによって真の協力と理解、その先の「成長」を実感でき、だれもが活躍できる理想的な共生社会を体現できていると思っています。私たちは、この20年で培った経験の原点に立ち返り、そのノウハウを多方面で最大限に生かすことに努めます。

3. グローバルなネットワーキングと情報発信

プロジェクトの発展・推進には多世代、他地域の方と関わり、ともに楽しむ参加者と運営者を増やしていく必要があります。日本や世界中のクライミング団体や障害関連機関との連携を強化し、情報交換や共同プロジェクトを進めてまいります。交流型クライミングイベントやスクールなどを通じ、障害者クライミング普及発展に貢献するとともに、日本での取り組みを世界に発信し、より大きなムーブメントを創り出していきます。

明日へ、一手一手を繋げていく。

モンキーマジックの「マジック」は、特別な力のことではありません。それは、障害者だけではなくすべての人が持つ無限の可能性を信じ、登ることを楽しむ中で生まれる「変化」であり、「成長の実感」です。クライミングには誰もが登る経験を共有し、共に楽しみ、悔しがり、応援し合える空間があります。その空間が社会へと広がり始めたとき、社会は今より成熟するといえるのではないかと思います。

この20年の経験を胸に、障害の有無にかかわらず、誰もが自分らしく輝ける社会を目指して。次の10年、「障害者」という概念に変化があることを信じて。皆様の変わらぬご支援とご協力をお願い申し上げます。

2025年8月

特定非営利活動法人モンキーマジック 代表理事

小林 幸一郎



20周年記念コピー

さあ、まだ見ぬ壁が待っている。

20周年にふさわしいコピーは、「見えない壁だって、越えられる。」を手がけたコピーライター 葛谷 晴子さんに再びお願いしました。挑戦を楽しんでいるような、モンキーマジックらしい素敵なコピーが生まれました。

「見えない壁だって、越えられる。」

このコピーは2013年、モンキーマジックさんのパンフレットを制作するプロボノプロジェクトの際に書いたものです。実はわたし自身がクライマーだったこともあり、プロジェクト参加前からモンキーマジックの名前だけは知っていましたが、実際に代表の小林さんにお会いしてその情熱に触れ、こんな活動をしている人たちがいたのか、クライミングがこんな形で人に力を与えられるのか!と魂が震えたのを覚えています。

当時わたしはコピーライターという自分の仕事は本当に世の中の役に立っているのだろうか?というモヤモヤとした気持ちを抱いており、プロボノに参加したのもそれが理由でした。小林さんに何度もダメ出しされながら最後「これだ!」と言っていたいただいたパンフレットの見出しが、10年以上経った今もホームページのトップに掲げられ、小林さん著書のタイトルやブランドミッションにまで使っていただき大切にされていることに、こんなコピーライター冥利に尽きる幸福な仕事はないなと感じています。あのとき自分の抱んだホールドはこんな未来に続いていったんだ、わたしを選んだこの仕事も意味があったんだな・・・と答え合わせできた気がします。

コピーライター
葛谷 晴子

Index

もくじ

代表挨拶

▶ P2-3

Interview

モンキーな人々に話を聞いてみた

▶ P4-8

History

モンキーマジック20年の歩み

▶ P9-15

Overview

モンキーマジックの事業

▶ P16-20

Donation/Support

寄付・協賛のお願い

▶ P21-24

About

モンキーマジックについて

▶ P25-26

※「障害者」の表記については、公的機関でも使用している漢字での表記に統一しています。これは「障がい者」や「障害者」などの表記に対して、「害」という表記のみに敏感になり本質を見落とすことがないように、という私どもの意志によるものです。

代表 小林 幸一郎(視覚障害当事者)

Interview

モンキーな人々に話を聞いてみた

20周年の節目に、モンキーマジックの活動を初期から支えてくださっている参加者の方や、法人運営に助言いただいてきた理事の皆さまにインタビューを行いました。

Interview

モンキーな人々に話を聞いてみた

01 クライミングの魅力は「自らの力だけで課題を解決し、ゴールに至る」こと

三輪 まり枝さん（モンキーマジック理事／視能訓練士）
北里大学医療衛生学部 客員准教授、埼玉医科大学病院眼科 非常勤講師

モンキーマジックの理事になった経緯

今から25年ほど前、代表の小林幸一郎さんが、私が以前勤務していた国立障害者リハビリテーションセンター病院のロービジョンクリニックを受診された際、私がケアの担当をしました。当時、小学校低学年だった私の次男がクライミングに興味を持っており、コバちゃんがクライミングに誘ってくださって、それから親子共クライミングに魅了されました。その後、国リハの患者さんと一緒にクライミングを楽しむ機会が増えて、モンキーマジックを設立された際に理事にとお声かけ頂きました。



モンキーマジックの活動で印象的だったこと

神奈川県城ヶ崎の海岸や八丈島などの屋外でのクライミングが印象に残っています。屋内のジムと異なり、前日の雨で岩が苔で滑りやすくなっていたり、上に登るに従って風や波の音で地上からのアドバイスの声が聞こえなくなったりと、ゴールは難易度が高いものでした。

でもその分、**自分一人でゴールまでたどり着いた時の達成感や爽快感を今でも思い出します。**



活動のどんなところに価値を感じているか

クライミングは障害の有無に関わらず、皆が一緒に楽しめるスポーツであることに価値を感じています。特に、**視覚障害のある方がサポートされるばかりではなく、晴眼者をビレイしてサポートするなど、お互いのできることを協力し合うことで相互理解を深める機会となっていると考えます。**

今後のモンキーマジックに期待すること

モンキーマジックのホームページに掲載している以下の項目を、より多くの方に知ってもらう活動を継続していくことを期待しております。

- ・ 晴眼者と同じ課題を、同じルールで解決することができ、機会を共有することで相互間の交流と障害者理解の促進にも貢献できる。
- ・ 「自らの力だけで課題を解決し、ゴールに至る」クライミングの過程が、視覚障害者の日常生活力の向上にも貢献できる。



マンスリーサポーター、理事の皆さまと囲ったモンキーマジック19周年のお祝いの席にて

02 クライミングの交流を楽しみながら、夫婦で世界の舞台へ

江尻 元洋さん（48歳）、江尻 弓さん（40代）
お二人とも、イベント参加者／視覚障害当事者／パラクライミング競技者

モンキーマジックに出会ったきっかけ

元洋さん：ジムでのフリークライミングは大学時代の友達に誘われて、2004年くらいに趣味で始めました。しかし、視覚障害があることで一緒に始めた友達との差もどんどん開いてしまい、やっぱり健常者の人と一緒に楽しむのは難しいかと思っていた時に、インターネットでモンキーマジックのHPを見つけました。

弓さん：元々夫が先にクライミングを始めて、高田馬場に新しいクライミングジムができたタイミングで連れて行ってもらいました。2回目に夫に連れられてモンキーマジック主催のインドアスクールに参加したのが、モンキーマジックとの出会いでした。

活動に参加して、感じた変化

元洋さん：スクールに初めて参加した時に、小林さんはじめ、川島さん、岩本さん、井戸本くんなど自分より重度の視覚障害者の登りを見て、凄まじい衝撃を受けました！以降クライミングに対して物凄く真摯に、前向きに、積極的に取り組むようになりました。

弓さん：学生時代は一般学級に通っていたので自分以外の障害者と出会う機会がほとんどなかった私。初めてスクールに参加した時は、自分と同じように目の見えづらい人たちが自立してスポーツを楽しんでいる姿を見て、驚きと尊敬しかありませんでした。そして、**自分もこんな風になれたらいいなぁと憧れのような気持ちになりました。今自分が憧れていた存在のようになっているかは別の話ですけどね(笑)**



活動のどんなところに価値を感じているか

元洋さん： 健常者と障害者、老若男女が対等な立場で一緒に楽しくクライミングする空間が提供されていて、さまざまな交流が生まれると良いなぁと思っています。サイトガイドを務めてもらっている宮本さんとも、高田馬場のマンデーマジックで出会いました！

弓さん：マンデーマジックやインドア・アウトドアスクール、地域交流型イベントなど、人との繋がりの大切さを感じています。私のサイトガイドを務めてくれている伊藤さんともモンキーマジック繋がりで、クライミングジムに行ったら声をかけてくださる方もモンキーマジックのイベントでお会いしたことがある方々だったりします。

今後のモンキーマジックに期待すること

元洋さん：昔クラウドファンディングで作った「**障害サイン付きチョークバッグ**」の認知度の向上です！白杖を持って街に出ると声かけや、親切にしてくれる方がたくさんいます。クライミングジムでもこのチョークバッグを付けていることで、サイトガイドをしてくれる方が増えると良いなぁと思います。



弓さん：モンキーマジックのイベントに参加してみようかなぁとふらっと戻っても、あたたかく迎えてくれる、そんな実家みたいな居心地のモンキーマジック。いつでも戻って来られる場所があるって素敵なことです。細々とでもいいので、ずっと元気でいてください(笑) また、モンキーマジックのイベントに参加している人たちは性別も年齢も職業もみんなさまざま。それぞれの得意分野でもっとモンキーマジックを盛り上げていけたらいいなと思います。

03 クライミングは「冒険」。工夫次第で長く楽しみ、成長し続けられる

長橋 孝明さん（40代）
イベント参加者／視覚障害当事者

モンキーマジックに出会ったきっかけ

目が見えなくなって、今年で20年。モンキーマジックは、杏林大学の視能訓練士の新井先生に「こういう団体があって今度講演するよ」と聞きました。ちょうど当時はセカンドピニオン等の対応をしていたからすぐには参加できませんでした。2年ほど後に、大活字（用具ショップのような所）で、パンフレットを見つけて。元々スポーツは好きで、見えなくなってからも他のスポーツもしていたけど、クライミングをやっている視覚障害者がいるのも聞いてたから、とりあえず行ってみたいと思い、弟と一緒にインドアのクライミングスクールに参加することにしました。



当時のタカさん

活動に参加して感じたこと・変化

初めてのクライミングの感想は、「めちゃくちゃ楽しかった」。登ること、体を動かせる達成感や悔しいという思いとか色んなことを感じて、また次も参加したいなと思いました。その後、外岩スクールに初めて半日参加したら、捻挫してしまい。コバちゃん（代表小林）には「もう来なくなっちゃうんじゃないか」と思われただろうけど、実際には「全然やめないよ」というくらい、なんだか毛穴からゾクゾク感みたいなのが出るんです。たとえば、外岩までのアプローチは「こんなところ下るの?」というところばかりで。まだ歩行訓練もしてなくて弟のザックを掴んで歩いている状態の自分は、ストックとかそういうものも持っていない。でも、怖いというよりもすごくワクワクして、まさに「冒険」でした！

小川山のスクールで他の登っている視覚障害者と初めて会いました。その人たちから「靴とか道具は早く買ったほうがいいよ」と言われたり（笑）、結構影響を受けたし、みんなで登りに行くようになりました。コバちゃん（代表小林）もまだ生活訓練を受けていなくて、白杖もあまり持ち慣れず、よく置き忘れていたけど、目が見えなくてもあちこちに行っていて尊敬していました。

活動のどんなところに価値を感じているか

障害に関わらず、色んな年代・性別の人と一緒に登れること。スクールやイベントを目標に体調等もコントロールしています。不思議とうまく調整ができています。あとは、長く参加し続けているスクールで最近、指導者の大古田さんに「教えたことが活かしている」と褒めてもらいました。というのもずっと大古田さんには「タカさんは言うことを聞かない（笑）」と言われていて。確かに昔はガツガツ登っていました。でも、10年ほど前から少しずつ指の関節と足首が動かしくなってきた、手がだめなら足でカバーしようと、パワーより技術を求めて登るようになったんです。クライミングはそこを工夫できるのいいと思っています。



イベント100回皆勤賞の記念品を受け取るタカさん

今後のモンキーマジックに期待すること

今はモンキーマジックのスクールで登っているだけだから、スクールは今後もぜひ続けてほしいです。あと、「マンデーマジック」はもっと交流できると良いですね。自分は初参加の方やボランティアの方とも結構話す方だと思います。元々の仕事でも世代関係なく関わっていたこともあって、多様な人と関われるのが今でも楽しいんだと思います。

04 クライミングはツール。大切なのは楽しい時間を過ごせる居場所になること

鈴木 直也さん（モンキーマジック理事）
株式会社サンドストーン代表

モンキーマジックの理事になった経緯

覚えていません。理事になっていることも忘れてます...（以下、代表小林談）直也とは20年以上前にアメリカで出会い、エリック・ヴァイエンマイヤーのことを教えてくれたモンキーマジックにとって運命的な人です。その後、共に海外を訪れ、岩を登り、大会に出場する中で、直也のアメリカでの経験に裏付けされた力が必要だと強く思い、力を貸してほしいと話しました。今やモンキーマジックの活動を国内外に広げるのに、欠かせない大きな力となっています。

モンキーマジックの活動で印象的だったこと

CHUMS主催の「BOOBY BIRTHDAY CAMP」で、初の仮設のクライミングウォールを建てるサポートをしたのを覚えています。あいにくの大雨でしたが、みんなの“手作り”の気持ちがこもったあたたかいイベントでした。他には、何とんでも2018年のケニアでのクライミングプログラムに同行したことが印象的です。2日間でケニアの障害のある子を含む100人近くの子供たちが、ブルースカイというジムに集まったわけです。クライミングをしたこともなければアジア人に会ったこともない子どもたちのギラギラしてピュアな最高の笑顔。あの顔を見た瞬間から、もう成功だなと思うほど感動しました。さらに、晴眼者でクライマーのアルバイトの若い子たちが本当に協力的でした。いきなり視覚障害者が何十人も集まるような初めての経験でも、懸命にハーネスにロープをつけてあげたりして。色んなバックボーンを持つ人たちが協力しあって同じ時間を過ごし、幸せを得ているのを見て、本当にすごいことだと思いました。



直也さん



活動のどんなところに価値を感じているか

モンキーマジックの活動はクライミングというより「交流」をしていて、どうすれば自分が幸せになるのかと居場所を探すようなことを支援しているのではないかなと思います。法人のコンセプトである「見えない壁だって、越えられる。」この言葉にすべてが詰まっています。障害の有無に関わらず、生きていて誰もがぶつかると「壁」があります。でも、それをみんなと一緒に楽しく乗り越えられたら、きっと前に進める。たまたま私たちにとっては、それが「クライミング」だっただけ。でも、クライミングを通じて得られる価値は、それ以上の何かがあると信じています。

今後のモンキーマジックに期待すること

こばちゃん（代表小林）が伝えてきたこと、大切にしてきた想いを、しっかりと次の世代へつないでいてほしい。そしてその想いが、これからも世代を超えて受け継がれていくことを心から願っています。

History

NPO法人モンキーマジック20年の歩み

モンキーマジックの20年の足跡を当時のエピソードと共にまとめました。知られざる裏話もご紹介しています。

History

NPO法人モンキーマジック20年の歩み

2004

28歳で網膜色素変性症の診断を受けた代表の小林 幸一郎。
戸惑いながらも、生き方を模索する中で設立したモンキーマジックの足跡。

前身である任意団体として活動をスタート。

■「視覚障害者にクライミングは危ない？」

外岩クライミングスクールを中心に活動。
この頃はまだクライミング人口や認知が今に比べると少なく、インドアジムもあまりなかったため、視覚障害関係の団体に「このような活動を始めたので、ぜひ参加してください!」と呼びかけても、「視覚障害者にクライミングなんて危なくてさせられない」と門前払いをされることもしばしばでした。



2005

NPO法人モンキーマジックが始動!

「全盲でエベレストをはじめとする世界7大陸の最高峰に登っている人がいる。」鈴木直也の言葉で知った、クライマー エリック・ヴァイエンマイヤーに刺激を受けた小林がNPO法人モンキーマジックを設立。同年、エリックの誘いで複数の視覚障害者とキリマンジャロ登頂に参加。この時の体験がモンキーマジックの活動に大きな影響を与えました。



2006

■ THE NORTH FACEのサポートTシャツ1作目!

THE NORTH FACE(株式会社ゴールドウイン)からの支援が開始。最初のTシャツの背面のデザインはランドルト環(視力検査表)。



2006

障害者クライミングを知ってもらえたことが、大きな転機に！

第7回日本ロービジョン学会学術総会
第15回視覚障害リハビリテーション研究
発表大会 合同会議で、
学会発表とクライミング体験会を実施

多くの関係者や視覚障害当事者の方に活動を知ってもらい、実際に体験していただけたことがきっかけで、クライミングスクールへの参加者が増えていきました。



2008

理事の小田先生（東京女子大学）が「視覚障害のある人の自己効力感に対するフ
リークライミング体験の短期的効果」を発表

2012

主催事業・障害の有無問わず参加できる「交流型クライミングイ
ベント」がスタート！

念願の交流型クライミングイベント「マン
デーマジック東京@高田馬場」初開催！

スクール以外で障害者が気軽にクライミングに出かけられる世界を作れないか、と構想していたのが「マンデーマジック」。障害の有無関係なく仲間になれるイベントです。

「CHUMS」（株式会社ランドウェル）
がサポート開始



2013

心強い広報ツール「リーフレット」「HKK講習動画」が完成！

モンキーマジックへ寄付いただくとお手元に届くお馴染みの黄色いリーフレットが完成。また、視覚障害のある人へサイトガイドする方法であるHKK（方向・距離・形）を知ってもらえるよう、動画「視覚障害者と楽しむフリークライミング」を明治大学のクライミング施設で撮影しました。動画にはクライマーの野口 啓代さんや、会田 祥選手の姿も！見たことがない方はぜひご覧ください。



動画はこちらから▶

2014

交流型クライミングイベントを運営する地域が誕生！

初の地域交流イベント「えぞモンキー」！

東京を離れた元モンキーマジックスタッフが「マンデーマジックのようなイベントを北海道でもやります！」と地元・札幌で立ち上げたのが「えぞモンキー」。

地域に密着して運営される交流イベントの最初の地となり、2023年には定例会が第100回を迎えました。現在は全国や海外の18地域（5地域は準備中）まで広がっており、定期的な運営は全国の有志の方々に支えられています。



2015

モンキーマジック解散…?! 10周年にして最大の危機。

縁でつながった支援と初の目かくしコンペ

資金難により法人の解散が代表小林の脳裏によぎっていた頃。NPOサービスグラントのコーディネートで日本マイクロソフト社のサポートを受けられることになり、急ピッチで企業との連携や戦略立案が進みました。

並行して10周年の節目に小林がずっと構想してきた「目かくしのクライミングコンペ」の開催に挑戦することに。THE NORTH FACE・CHUMSの協賛で、子どもから大人までペアで互いの目になって、登ってガイドもするコンペが生まれました。

秋には、米国のマイクロソフト社の世界10カ国の非営利団体を支援する助成金「Upgrade Your World」選出の知らせが届き、雨降って地固まった一年となりました。



2016

障害者が当たり前前にクライミングジムに行ける世界への第一歩。

「障害サイン付きチョークバッグ」配布開始！

外見からはわかりにくい、耳や目、内部障害等がある障害者クライマーの目印として、オリジナルのチョークバッグを製作・配布するクラウドファンディングを実施。障害者クライマーを知らない利用者の方への認知、コミュニケーションの一助にいただくために、約470の全国のジム・店舗にポスターも送付しました。



2016

大阪のおさるのデザインのクラフトビール「箕面ビール」のサポート開始！

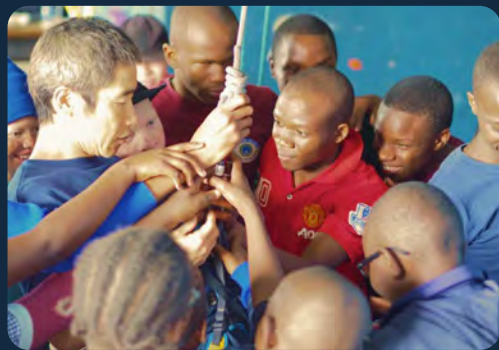


2018

障害者クライミングのノウハウを国内外へ届ける取り組み

ケニアで視覚障害者向けクライミングプログラムを提供！

障害者クライミング普及のノウハウをアフリカの国々に広げるため、現地のNGO Kilimanjaro Blind Trust Africa (KBTA)とクライミングジム Blue Skyの協力で、クライミング体験プログラムを開催。ケニアのナイロビ市内4校の盲学校に通う10歳から18歳までの75人の子どもたちにクライミング体験会、スタッフへ視覚障害者指導方法トレーニングを行いました。素晴らしいエネルギーにあふれた経験でした。



この事業はSPORT FOR TOMORROW政府認定事業として、日本国際協力システムの助成を受け実施しました。

神戸アイセンターにクライミングウォールを設置

最先端の眼科医療からリハビリまで対応する全国初の医療複合施設、神戸アイセンター内のビジョンパークに「みちびクライミングウォール」という光るホールドを設置しました。光が認識できる方なら青眼者と同じルールでクライミングを楽しめて、リハビリ等への活用が期待されます。



2020

保健文化賞受賞、天皇陛下拝謁

交流型クライミングイベントが第100回の開催を目前に中止が相次ぐなど、コロナ禍によって活動が難しかった時期に、継続的な活動が評価された嬉しい報せでした。翌年の贈呈式典では天皇陛下にも拝謁が叶いました。



2021

クライミングウェアRokxのサポートが開始



2022

障害のある女性のエンパワーメントを目的としたクライミングスクールがスタート

クライミングを通じて自己効力感や社会性向上の機会を提供する「チャレンジドガールズクライミングスクール」がスタート。「プレー・アカデミー with 大坂なおみ」から助成を受け、運営しています。

プレー・アカデミーは、ローレウス・スポーツ・フォー・グッド財団、ナイキと大坂なおみ選手が連携し、生涯を通じて恩恵があると証明されている遊びとスポーツを、現代社会に根付いているジェンダー格差を埋めるのに役に立つエンパワメントツールとして活用し、女の子の生活に変革をもたらすことを目的としています。



2023

映画「ライフ・イズ・クライミング！」公開！

鈴木直也と小林幸一郎の人生とクライミングトリップを追ったドキュメンタリー映画が全国で公開されました！海外映画祭でも多数ノミネートされ、日本映画批評家大賞のドキュメンタリー賞を受賞。主題歌はMONKEY MAJIKの「Amazing」。代表小林をモデルにした楽曲で、私たちにとっても大切な楽曲となりました。



2024

子どもを対象とした交流型クライミングイベントがスタート！

「クライミングを通じて、仲間になろう」と掲げ、障害のある子とない子が同じ空間でクライミングを楽しむ『モンキッズ』が生まれました。学校外のつながりで、回を重ねるごとに相手への理解や、誰かのための行動ができるようになるなど子どもたちの成長を感じられるのが魅力です。



初の海外の地域交流クライミングイベント

初の海外の地域交流イベント「Merdeka Monkey」がシンガポールのOutpost Climbing Gymでスタートしました。現地の障害当事者や支援者はもちろん、ジムや研究機関の関係者といった多様な方の縁を繋ぎ、今は現地の方だけで運営・定期開催されています。

上記2つの事業は、lululemonの社会貢献プログラム「Grow Impact」の助成により開始されました。



2025

祝・設立20周年！次のモンキーマジックの20年とは...？

全国へ地域交流型イベントの更なる展開に加え、アジアへの展開として現在台湾でイベントの定着に取り組んでいます。そのほかにもすべての活動で、より多様性を認め合えるユニバーサルな社会を作るためにモンキーマジックにできることを考え、向き合っていきます。

History of Support Tee Shirts

歴代サポートTシャツ一覧

クライマーなら一度は目にして
いるかも？THE NORTH FACE
のサポートTシャツ。

10種類以上知っていたら、
“モンキーマジックマニア”かも？！

2006



2007



2008



2009



2010



2011



2012



2013



2014



2015



2016



2017



2018



2019



2020



2021



2022



2023



2024



2025



Overview

モンキーマジックの事業について

モンキーマジックの主催事業(クライミングスクール・練習会)、交流型クライミングイベント、地域交流型クライミングイベントや受託事業(講演など)をご紹介します。

Overview

モンキーマジックの事業

主催事業 1 障害者クライミング普及事業 クライミングスクール・練習会

#障害当事者がクライミングに挑戦・上達できる場所



インドアスクール・練習会



アウトドアスクール



チャレンジドガールズ
クライミングスクール



発達障害児者のクライミング機会
拡大プロジェクト

主に障害のある方を対象にクライミングの体験、基本的な技術の習得や安全にクライミングを楽しめるようになることを目的に開催しています。スクールでは指導者のもと、スキルアップの支援等も行なっています。

主催事業 2 多様性理解促進事業 交流型クライミングイベント

#障害の有無問わずだれでも参加できるイベント

マンデーマジック

マンデーマジックは2012年から毎月開催しており、小学生から70代まで幅広い年代の方が参加されています。多様な方がクライミングを通じて交流する風景が「あるべき社会の縮図」だと信じ、全国に広げる活動(→P.19「地域交流型クライミングイベント」)も行なっています。



毎月第1月曜日

マンデーマジック東京@葛西

18:00-21:00 (途中入退室自由)
会場 NOBOROCK 高田馬場店

毎月第3月曜日

マンデーマジック横浜@戸塚

18:00-21:00 (途中入退室自由)
会場 CLIMBING GYM RISE

毎月第4月曜日

マンデーマジック東京@高田馬場

18:00-21:00 (途中入退室自由)
会場 Climbing Park ROCKLANDS

モンキッズ

小学4年生～中学3年生までの子どもを対象とした交流型クライミングイベント『モンキッズ』は、「クライミングを通じて仲間になろう」をテーマに2024年から毎月開催しています。障害のある子どもとない子どもたちが交流し、クライミングを通じて対話をして、楽しみながら互いの違いを理解することを目指しています。



あなたも参加しませんか？
マンデーマジック、モンキッズ
のお申し込みはこちらから！

主催事業 **3** 多様性理解促進事業
地域交流型クライミングイベント

#全国でだれもがクライミングを楽しめる世界へ



昨年の実績 (2024年活動報告より)

開催回数 **109**回 / **13**地域

主催地域数 **18**地域 (4地域は準備中)

参加者数 **963**名 (うち障害者のべ **311**名)



地域交流型クライミングイベントの3つのポイント

- 地域の人々が主催して定期的に開催する地域に根ざしたクライミングイベント
- 障害の有無や年齢・性別・国籍などの違いに関係なく、全員が同じいち参加者
- 新しい人と人がつながり、多様性を認め合い、クライミングを楽しむ仲間になれる場所

受託事業 普及・啓発・広報事業
講演会・ワークショップ



講演会・ワークショップのご依頼、承ります

多様性をテーマにした講演会やワークショップ、企業研修、代表 小林幸一郎のライフストーリーの講演等、内容につきましてもご要望に合わせたさまざまな形態のものを実施できます。お気軽にご相談下さい。

企業における実績

- ・ NIKE Japan(ナイキ ジャパン) 社員向けプログラム(ブラインドボルダリング実施) 講師
 - ・ ユニリーバジャパン全社員定期会議 にて講演(タイトル「Everything is possible」)
- ※その他、アパレルメーカー 社員研修、航空会社 社員研修、外資系金融機関 管理職研修、外資系メーカー チームビルディング研修等開催多数

学校における実績

- ・ 成蹊大学ボランティアセンター10周年記念セミナー「共生社会の実現」
 - ・ 岩瀬日本大学高等学校の文化祭(講演「多様な価値観への理解促進」)
 - ・ 埼玉県川口市立南中学校(川口市保護司会様主催) 講演「見えない壁だって、越えられる。」
- ※その他、小中高、大学等による特別講師、講演、ワークショップ開催多数

自治体における実績

- ・ 山梨県北杜市主催「未来創造オープンカレッジ」講演
 - ・ 京都府山城教育局主催「山城地方視覚障害者社会教育指導者研修会」
 - ・ 福岡県北九州市主催「登るチカラ、つなぐ未来～小林幸一郎さんと描くインクルーシブなまちづくり～」ワークショップ・トークイベント・体験会講師
- ※その他、東京都武蔵野市を始め全国各地の自治体で講演、ワークショップ開催多数

その他実績

- ・ 在ケニア日本大使館講演会 “A Life Story of a Visually Impaired Climber - His New Venture in Kenya”
- ・ 東京神宮・福岡舞鶴等ライオンズクラブにて登壇
- ・ 第98回令和5年全日本盲学校教育研究大会・北海道大会にて全国の盲学校教職員を対象に講演「ライフ・イズ・クライミング!～見えない壁だって、越えられる～」

Support / Donation

寄付・協賛のお願い

モンキーマジックの活動は皆さまのご寄付・ご支援によって支えられています。企業や団体、個人の方々など、広くさまざまな社会のご理解とご支援のほど、何卒よろしくお願いいたします。

Donation / Support

寄付・協賛のお願い

寄付・ご支援の使途

安定的、発展的な組織運営

- ・事務局運営経費

認知度向上のための広報活動

- ・リハビリ施設・学校など各種障害者施設での体験会の企画・開催
- ・関係者・団体に向けて体験会の企画・開催
- ・常設体験施設の設置

ボランティアスタッフの育成・確保

- ・トレーニング・講習会の開催

活動の全国展開

- ・インストラクター・ボランティアの確保
- ・交流の促進と当事者への広報活動

法人の皆さま

継続的なパートナーシップ

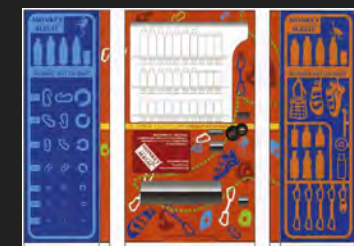
例) サポートグッズ・コラボ商品の企画

オリジナルのサポートグッズや、売上の一部が寄付になる商品の事例があります。多様性を認め合える豊かな社会のために、継続的な支援の形を共に考えていただける企業・団体様を募っています。



寄付型自動販売機

モンキーマジックの活動に賛同いただいたクライミング・ボルダリングジムはじめ各施設に自動販売機を設置いただくと、売り上げの一部がモンキーマジックへの寄付となり、障害者クライミング普及の支援に使われます。



寄付・ご支援

寄付・ご支援金は随時受け付けております。お預かりいたしました寄付・ご支援金の使途は、年度ごとに決算報告させていただきます。

ご支援いただきました企業・団体様は、弊会ホームページにて社名・団体名を公開いたします。寄付・ご支援金をお振込いただく際は、お手数ですがご一報いただけますと幸いです。



支援企業様 ※順不同

寄付企業／団体(一部)

朝日ライフアセットマネジメント株式会社
ルルレモンアスレティカ JP 合同会社
アズビル株式会社
azbil みつばち倶楽部
株式会社リプライ
株式会社ヤフー
「ライフ・イズ・クライミング!」青山中学校上映会実行委員会
アサヒ飲料寄付型自動販 売機設置各オーナー

協賛企業

THE NORTH FACE(株式会社ゴールドウイン)
CHUMS(株式会社ランドウェル)
株式会社シーワテック
ROKX(株式会社 SN Japan)
株式会社箕面ビール
株式会社敬洋
株式会社カンセキ
株式会社カイセイ (ノバリアクライミングジム)
ルルレモンアスレティカ JP 合同会社
アサヒ飲料株式会社

賛助企業

株式会社シーワテック

助成団体

ローレウス・スポーツ・フォー・グッド財団
ルルレモンアスレティカ JP 合同会社
子どもゆめ基金



SHIEWA TECH



個人の皆さま



個人の皆さまには下記のようなご支援いただける方法があります。ぜひご検討いただけますと幸いです。

- ・ サポートグッズのご購入
- ・ 活動内容の拡散のご協力（口コミ、SNSなど）
- ・ イベントにビレイ等のボランティアスタッフとしてご参加
- ・ 単発のご寄付
- ・ マンスリーサポーターとして継続的なご支援

マンスリーサポーターになりませんか？

障害、年齢、性別、文化などの違いに関わりなく多様性を認め合えるユニバーサルな社会の実現を目指すモンキーマジックの活動を継続的にご支援いただけるマンスリーサポーター(月額寄付者)を募っています。

マンスリーサポーターの皆さまとは、ただ応援していただくだけの関係ではなく、社会をより良くするためにできることや、多くの方に届けるためのアイデアを共に考える仲間になっていただければと考えています。

ぜひ、皆さまのご支援をお願いいたします。



月額寄付会員の詳細はこちら▶

About

モンキーマジックについて

これまで掲げてきたモンキーマジックのミッション(使命)・ビジョン(中期的な目標)に続き、この20周年の節目でバリュー(価値観)を整理しました。



About

モンキーマジックについて

Vision

障害者クライミング普及活動を通じて、多様性を認め合えるユニバーサルな社会を実現し、より成熟した豊かな社会を創ります。

Mission

モンキーマジックとは、「見えない壁だって、越えられる。」をコンセプトに、フリークライミングを通じて、視覚障害者をはじめとする人々の可能性を大きく広げることを目的とし、活動しているNPO法人です。

Value

クライミングを通じ、
自分の成長を実感できる体験を届けます

成長の実感は、自発的な行動により新しいチャレンジ、コミュニケーション、ネットワーキングを通じて得られるものであると考えます。

私たちは、関わる人すべてに、できないと思っていたことができる経験、出会ったことがない人々との出会い、見たことがないほどの笑顔を届けます。



FOLLOW US! ▶▶▶ @npomonkeymagic

モンキーマジックとコラボレーションしませんか？

多様性理解促進を目的とした講演、クライミング体験プログラム、映画「ライフ・イズ・クライミング!」上映会、企業研修等を実施しています。お気軽にご相談ください。





特定非営利活動法人モンキーマジック
2005年8月設立

事務所 〒167-0042 東京都杉並区西荻北4-4-2 セレスト西荻窪208
本部 〒180-0002 東京都武蔵野市吉祥寺東町4-11-6

✉ info@monkeymagic.or.jp

🏠 <https://www.monkeymagic.or.jp/>